
鏡なココロ

零桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鏡なココロ

【Nコード】

N7947A

【作者名】

零桜

【あらすじ】

少女はいつも自分の心にある鏡のことを思ってる。一人で、この矛盾が消えるように祈ってる。そして同時に、想い人のことを考えてる。でもそれを、いつもココロが邪魔をする。

(前書き)

小説っぽい詩です。でも詩というには長く、短編小説としては会話が
少ない中途半端なものです。

「私ね、好きな人の前だと駄目なの」

「なんで？緊張するとかだったらフツーじゃん？」

「違うの。だってね……」

「えー、それは可笑いよ！」

「だよねえ」

だってね……好きな人に近くに来て欲しくないんだ。

私はきつと天邪鬼。ココロが鏡で覆われてて、思ったことと逆のことが出てくるの。しかもそれが、本音と一緒にでてくるから私のココロはたまにグシャツってなる。

好きなのに嫌いって言う。逢いたいって想うのに、会いたくないって感じる。話したいのに声を聴きたくないって思う。

逢ってしまったら、私が私じゃなくなる。声を聞いたら忘れられなくなる。目が合ったら、頭が混乱する。離れたくない………って思う。

なのにもう、逢いたくないって思う。 嫌な矛盾した女。 独占欲強すぎ！

きつと、だから嫌われるんだ。私のココロが鏡だから。しかも鏡と
いっても、自分は決して映らない。映ることはない。全部逆を映す
鏡だから。私の心が天邪鬼だから。何もかも全部、全てのが矛盾
盾してるから。

いつそ壊れてしまえばいいんだ。こんな鏡・・・でも壊れたら私は、
自分の心を支えきれなくなるよ。

ほら、また出た。本音と天邪鬼。いつつもこの二つはペア。
フタツデヒトツ。

本当に何がしたいんだろう。
わけわかんなくなる。

「はあ・・・」

涙が次から次に溢れ出てくる。なんで？どうして？

ほらまた、ココロがひびの入った鏡で傷付いた。もうすぐ本当に壊
れるよ？

だからさ・・・好きな人の前でくらい、その鏡の仮面を取ったら？

だってそれは、貴方が自分で着けたんだから。

ああ...そっか、フツッそうだったんだ。

好きで好きで堪らない。忘れたくても忘れることなんて出来ない。

だから鏡の仮面を増やした。増やして、もう私の心に傷が入らないようにして・・それで傷つくことも知らないでどんどん覆った。それで嫌われるならそれでもいいって、思ってたから。

でももう無理。限界。貴方に嫌われるのなら死んだほうがまし・・・なのに優しくされると優しくしないでって思う。

ああ、ココロも頭も矛盾してる。鏡に侵食されてる。

やっぱり私は天邪鬼。

私の心は『鏡なココロ』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7947a/>

鏡なココロ

2010年11月17日14時38分発行